（第三種郵便物認可 昭和七年六月十五日）　昭和十三年八月十六日　常磐新聞　（火曜日）　第一千百三十五號　【一】

夕刊

常磐新聞

八月十五日

發行兼編輯印刷人　伊藤隆次
福島縣小名濱町古港一
發行所　常磐新聞社
日刊但日曜祭日翌日休刊
一部二錢　一ケ月三十錢
廣告料一行五十錢

クスリ
資生堂
電話小名濱一四七番

巷間を賑はせた三千圓問題

林警部補の名仲裁で解決

三者代表立會てきのふ圓滿手打

小名濱町中島某資產家と養女に絡まる三千圓問題は本紙が逸早く報導し巷間を賑はせて居つたが法理と道義の錯綜した問題丈けに、時つた、今回の林警部補の仲に暴行あり、命を投出しても人道の爲めには犧牲になるなどとこう慨悲憤の男を打込んでの張込み丈けに機は將に圓熟し、昨十四日午前九時關係三者が人事相談所に會見し林警部補の仲裁で一千五百圓を某女に提供門側に拔け新梅屋より福田屋前の直角を適切に加除して市街の面目を一新すると云ふにあるらしく問題は古江名町青年團では奮盆休みに江名築港工事に出役して百五十圓を得慰問袋を作成して同町出身勇士に贈つた港將來の浮沈に拘る重大性ありと小野第一區長等は區民の先端に立つて奔走を續けてゐる

張鼓峰の激戰で 松原君名譽の戰傷

戰死は誤報で目下入院中

小名濱町竹町出身松原茂三郎君は滿ソ國境警備中今回張鼓峰の激戰で名譽の戰死十二日の三回に亘り附近のをとけた旨東朝紙の現地特派員により十三日附紙上に報導されたが翌日の紙上には戰傷と訂正され本人よりも十日附で負傷入院中であ署に檢擧

〝區民の死活問題だ〟

小名濱、江名間新道路開鑿に 古港方面から反對運動

小名濱町より江名町に通ずる縣道途中の神白隧道は昨年中開鑿し小名濱町東端新町迄新道路が開拓され、本年よりは縣土木課の方針と路開さくの個所變更を平土して御陣屋を切り開き一直線に本町と繋ぐ設計の下に着工の手順となつてゐるがこの新道路が實現すれば現在古港居住の商人は廢道に「古港の死活問題だ」としてた、一時は戰死を報せられた事とて役場知己は安否を確める爲めに緊張の幾日を續けた

衣類二十七点 先生から盜む

小名濱町横町一〇藤社實雄方籠職人服部由治(三七)は七月二十七日、八月八日、同十二日の三回に亘り附近の込み衣類二十七點(價格四十六圓)を窃取、入質したことから足がつき十四日本

魯濱ブリで張切る

日水冷凍庫既に一萬本

粒も大きく値段は十三、四文

目下各濱大敗漁場はブリの好漁期を控へ何れも緊張そのものであるが、既に日水冷凍庫に入荷したものが一

派出な盆踊りは取止 應召軍人の祈願祭

日水の大漁地藏尊例大祭

日本水產株式會社小名濱冷凍工場内鎭座の大漁地藏尊例大祭は恒例に依り來る十九日(舊廿四日)午後六時より執行されるが本年は非常時局下にあるため派手な盆踊等は一切取止め出征軍人の武運長久と戰歿勇士の冥福を祈願する事になり御家族御遺族の參列を希望してゐる、尙列席者には御守護札と供物を贈る筈で時間は正六時勵行の筈である

搜索願　群馬縣桐生市天神町鈴木恒雄(二六)は昨年十二月妻八重子(二六)と男女二兒を殘して內鄕村の炭礦に出稼ぎに出たが音信不通となり管轄點呼にも出席せず時局柄何とかして探し出したいと實父から平署へ搜索願

淨財獻金　草野村綱谷念佛講鈴木寅吉さん外十四名は奮盆中の喜捨十圓を陸軍恤兵部へ獻金

特別補助金は 前年より增額

本縣へ割當てられた本年度各市町村分地方財政調整補給金は二百六十二萬八千二百五十五圓で前年の百八十七万九千二百三十三圓に比し三割五分強の增額であり一人當り一圓六十六錢三厘であるから前年の一圓十錢八厘に比べ五十五錢五厘の增額となる、それ丈け各市町村の特別戶數割及び地租特別地稅の兩附加稅が減額されたわけだから縣民にとつては非常な福音である主務省今回の方針は縣を單位として市町村別配分額を外部に發表せず縣において考究の上配分額を決定、市町村に交付することになつてゐる

村道修理　夏井村青年團二十余名は盆休みを利用、村道修理に當り村民より感謝されてゐる

酒井醫師　平市南町醫師酒井國三郎翁は去る十三日親戚の葬儀に會葬午後一時半頃市內性源寺において腦溢血で卒倒急逝した、享年七十二

被服縫製作業　平市社會課が軍人遺家族に對する授產事業の一つとして斡旋した被服縫製作業は既報の如く市內平陽女學校で行つて居るが參加者も日に〳〵增加し、エプロン姿も甲斐々々しく誠に力強い銃後風景を見せてゐる

社會課では引續き之を斡旋し各自の增收を圖る外努めて日常生活費の節約により貯蓄熱を高揚させる方針で種々指導に當つ

天氣豫報

今晚　北東の風曇り驟雨
模樣
明日　北東の風曇り一時晴れ

謹告

來ル八月十九日(舊七月廿四日)ハ弊工場內鎭座大漁地藏尊ノ例祭ニ當リマスノデ同日午後六時カラ出征軍人ノ武運長久ト戰歿兵士ノ冥福トヲ併テ祈願致シ度イト存ジマス

就而出征軍人ノ御家族樣及同御遺族樣方ニハ是非共御參列ヲ賜リ度ク此ノ段紙上ヲ以而御通知申上マス

昭和十三年八月十五日

日本水產株式會社小名濱冷凍工場

秋山金作

出征軍人御家族御遺族各位

大正火災保險株式會社　代理店

磐城水產工業株式會社

小名濱町築港內

電話一四四番

陣中通信

丹野純一郎

（四）

十八日　晴、覇王山東北側の各部落を占領次で重砲、山砲、野砲の援護射撃のもとに一氣に王庄及張庄を占領す、敵も相當頑強にして後退せず、我が渡邊隊は戰車〇〇臺と協力攻撃す、敵も必死の抵抗をなし我が攻撃部隊に猛烈に射撃し來る彈は頭上をヒユ〳〵と飛び去り或は空中にてダム〳〵彈の破裂の音或は足下にブス〳〵と音を立てゝ土にもぐる迫撃砲彈は鍋でも破れる様な音を立てゝさく裂する頑強なる敵も歩砲隊の決死的攻撃と空爆により陣地を捨てゝ漸次後退す、我方も直ちに猛攻撃を開始夜に入り敵は增加したる様子か益益猛射撃をなす、この時我が渡邊隊は決死隊となり渡邊隊長以下將校は白タスキ我々兵は白布を腕に巻きて待機す友軍の〇、〇、〇砲はこの時一齊に砲門を開き敵陣地に對し猛烈なる射げきを完行沈默せしめたる後我が渡邊隊全員は一死報國は此の時とばかり暗夜無言の前進を開始す時に午後九時なり、夜襲せるに敵影なく十一時小山子附近を占領すべく前進附近に到着寸前にして突然山中より敵の猛射を受け迫げき砲彈は數十發飛來直ちに應戰戰車の協力を得て激戰の後占領す

十九日　晴、昨夜來一すお採らぬ狸の皮算用を恣にしもせず逆襲を警戒しつつ夜て居つたが、期待する方が愈々縣の方針と指導を仰ぎ無理か、させて失望させる改築費は五千圓、而して戸く射げきすダム〳〵彈はヒユ〳〵と飛んで空中にはさ增築、役場改築等已むに獻附は二千圓と云ふ處で方針く裂丁度兩國の川開の花火のやうだ我が歩兵部隊は散も決定し來る十月より改築まれぬ破目に突當つた、村開攻げき前進又戰車隊と協力役場改築は村長の記念碑同に着手する事になつたが、様に當然江尻村長より寄附他人の金を當にして寄附さされるものと村長の就任條件の如く考察した村議連中れぬとて向つ腹立てても當の失望も又失笑ものと云ふ題を持込んでも何等の反響べきである、その當時よりもなく、而して泉村役場は改築問題を口にした村議連改築される事になつた

悲の聲

泉村役場は斯くして近く改築さる

泉村は多額納稅村長を戴き村民初め村議連も暗默の內に村長に大きな期待をかけ

日曹合成塩酸
日曹曹達灰　販賣
日曹自動三輪車

其他化學藥品類

魚糟製造　日本曹達株式會社　江名工場

酒銘　玉の井　長瀨彰義醸造元　玉川村林城

爽快なる氣分で……
楚々たるサービスで、
是非一杯……
カフエー末廣へ
小名濱下橫町

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
高柳醫院
平市驛前（電話三三六）
醫學博士　高柳博明

小瀧は招く
一日の清遊には……
どうぞ小瀧鑛泉へ！
猿の子が生れました
とても可愛いです
鐵道指定旅館
割烹　小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

日の出上醬油
養老味噌醸造元
綠屋商店　電話二十九番
千代田生命保險相互會社
富國徵兵保險相互會社
昭和火災保險株式會社
代理店

銘酒「清世界」吟醸
榮養價百パーセントの
各種罐詰も販賣致します
吉清水屋本店
小名濱町中島通り
電話六番

性病科
產科
婦人科
平市田町
井坂醫院
（電話五五九）
午前宅診
午後往診
入院隨意
專門

値段の——安い
服型の——新しい
仕立の——良い
皇恩會
小松洋服店
平市槌才小路十二
小松正治

口腔外科　齒科一般
森合齒科
院長　森合芳男
電話植田七十一番

宅扱と小口扱貨物は
磐城海岸軌道線指定
小名濱運送株式會社
小名濱本社電話一〇六番
泉驛出張所電話十五番
江名濱出張所電話二六番